

令和7年度 体罰に関する意識調査結果

1. 目的

令和2年4月に改正児童福祉法等の施行により体罰禁止が法定化されたことを受け、神奈川県児童相談所において体罰未然防止に係る様々な事業を行った。

事業実施による普及啓発効果を検証するため、昨年度に引き続きインターネットによる意識調査を実施した。(今回で6回目)

2. 対象

神奈川県民 (インターネットにアクセスし、回答した人)

3. 調査期間

令和8年1月8日(木)から同年2月8日(日)まで

4. 方法

神奈川県中央児童相談所のホームページにアクセスし、性別、年齢及び以下5つの質問に回答
(個人のパソコン、タブレット、スマートフォンで回答)

児童相談所、市町村児童福祉主管課、所管保育所等でのポスター掲示、児童相談所公式Twitterでのツイート、子ども家庭110番相談LINEプッシュ機能通知等を活用し周知を行った。

- 質問1 体罰が法律で禁止されたことを知っていますか。
- 質問2 しつけのために子どもを叩くことは必要だと思いますか。
- 質問3 体罰が子どもに与えると考えられる影響を知っていますか。
- 質問4 体罰以外のしつけの方法を学びたいと思いますか。
- 質問5 子どものために必要なしつけとは、どのような方法で行うことだと思いますか。

数値の見方 本文及びグラフの数値は、その表章単位に合わせて計算された数値を四捨五入しているため、合計と内訳の数は必ずしも一致しない。

5. 集計結果と分析

体罰禁止に関する認知度(質問1に「知っている」と回答した人の割合)は**69.3%**で、**令和6年度調査(69.7%)と比較し0.4ポイント減少した。**

体罰の容認度(質問2に「そう思う」と回答した人の割合)は**3.8%**で、**令和6年度調査(3.3%)と比較し0.5ポイント増加した。**性別では**男性**が容認する傾向が見られた。

年齢別では**50代**が体罰を容認する傾向が見られた。

※令和6年度は、性別は男性が、年齢別は20代が最も高かった。

子どもへの影響の認知度(質問3に「知っている」と回答した人の割合)は**58.6%**で、**令和6年度(59.5%)と比較し0.9ポイント減少した。**

体罰以外の方法を学ぶ意欲に関する割合(質問に4に「そう思う」と回答した人の割合)は**64.6%**

で、令和6年度（66.2%）と比較し1.6ポイント減少した。

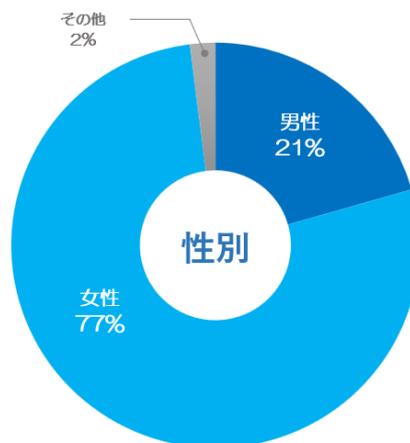
「子どものために必要なしつけ」（自由記載回答）については、いずれの性別、年齢においても「体罰以外の方法」という回答が多かった。次いで多かったのは、男性では「状況により体罰は必要」で、女性では「わからない、悩む、難しい」が多かった。年齢別では、0歳～19歳が「自分自身が体罰を受けていた」、20歳～29歳が「状況により体罰は必要」、30歳～39歳が「わからない、悩む、難しい」、40歳～49歳が「わからない、悩む、難しい」、50歳～が「子どもにより異なる」「保護者への支援が必要：「日頃のコミュニケーション・スキンシップが必要」であった。（いずれも「その他」を除く）

① 回答者集計

回答者数：1,068人

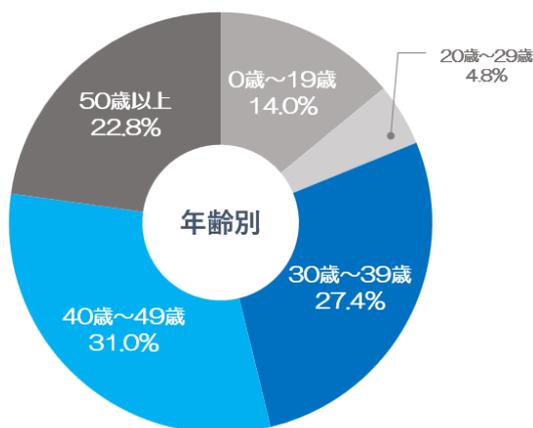
■性別

性別	人数	割合
男性	219人	20.5%
女性	825人	77.2%
その他	18人	2%
総計	1,068人	



■年齢別

年齢	人数	割合
0～19歳	149人	14.0%
20～29歳	51人	4.8%
30～39歳	293人	27.4%
40～49歳	331人	31.0%
50歳以上	243人	22.8%
総計	1,068人	



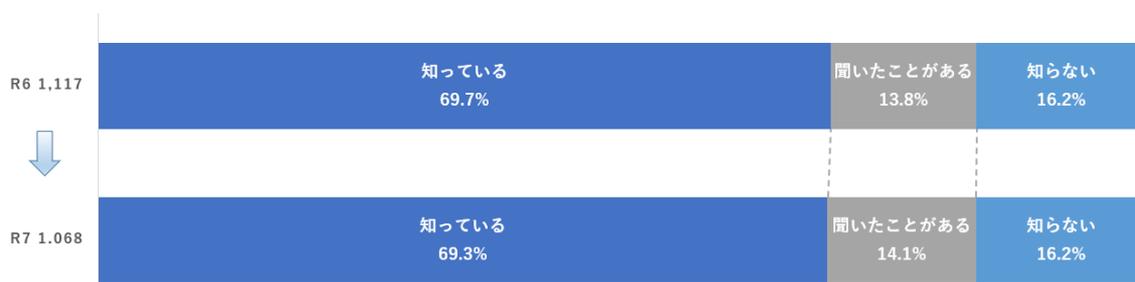
②各質問への調査結果

各質問への回答について、質問1～質問4については昨年度との比較、男女別の比較、年齢別の比較を行った。

質問5については、回答を17項目のカテゴリーに分類し、性別、年齢別の回答傾向を出した。

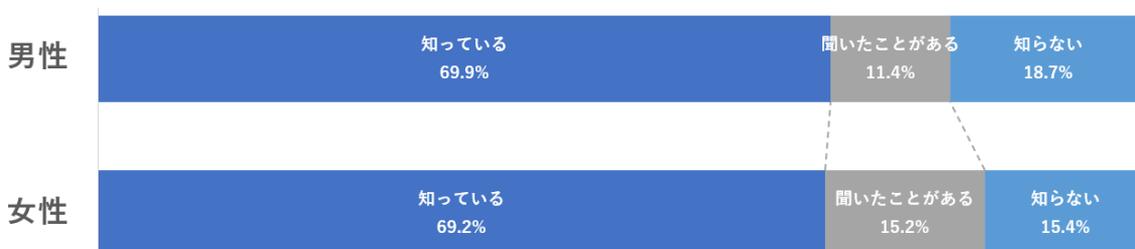
質問 1 体罰が法律で禁止されたことを知っていますか。

グラフ3 令和6年度との比較



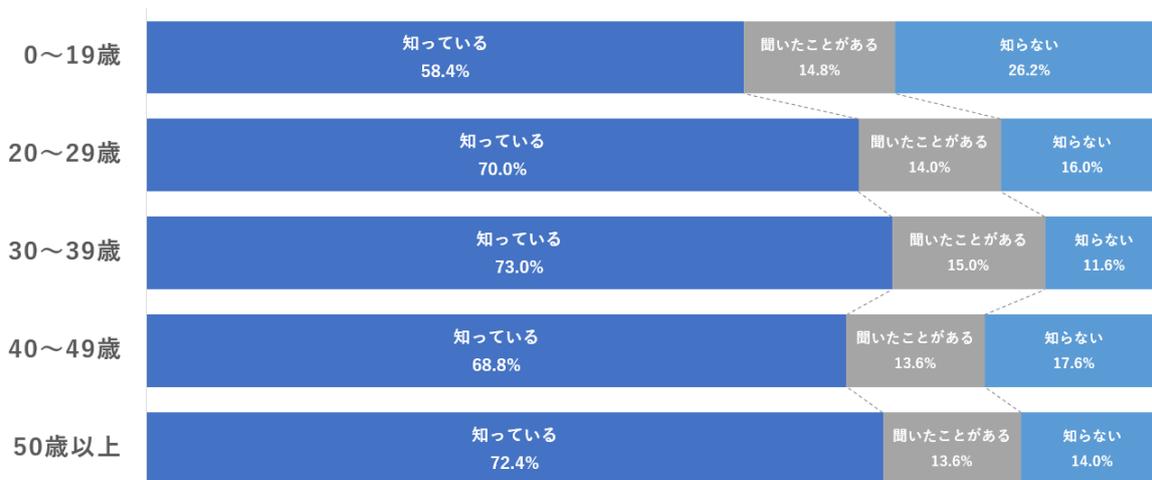
「知っている」の割合を比較すると令和7年度では0.4ポイント減少している。

グラフ4 性別と認知度の関係



性別では、男性の方の認知度が0.7ポイント高い。

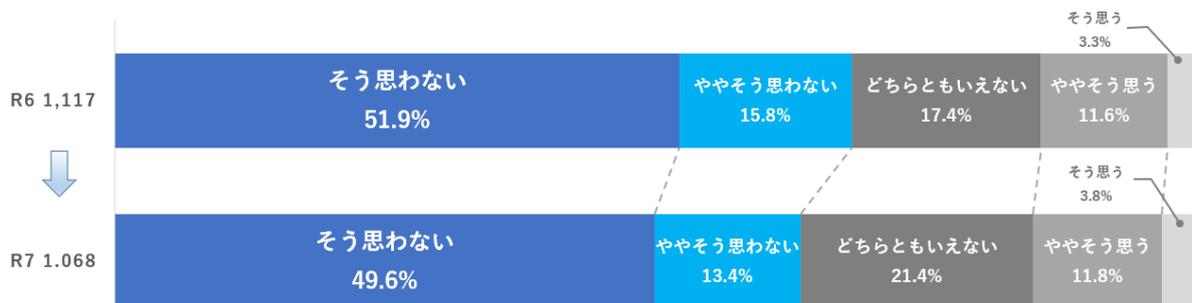
グラフ5 年齢と認知度の関係



年齢別では、30代が「知っている」の割合が最も高く、10代が「知らない」の割合が最も高い。

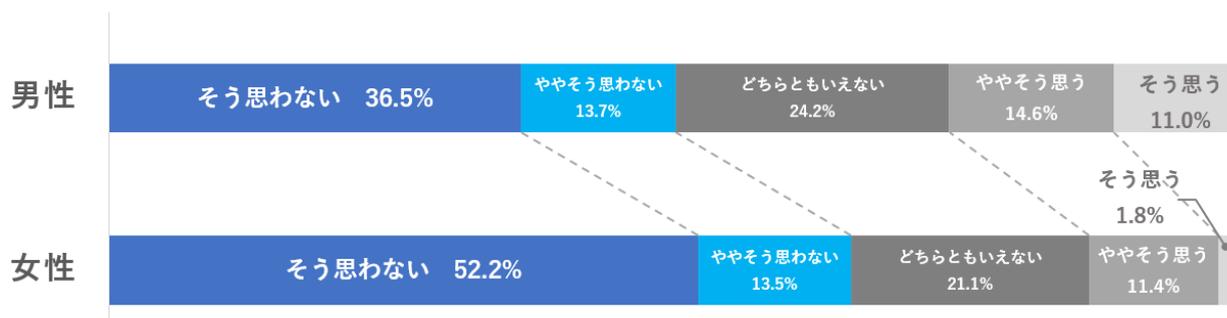
質問2 しつけのために子どもを叩くことは必要だと思いますか。

グラフ6 令和6年度との比較



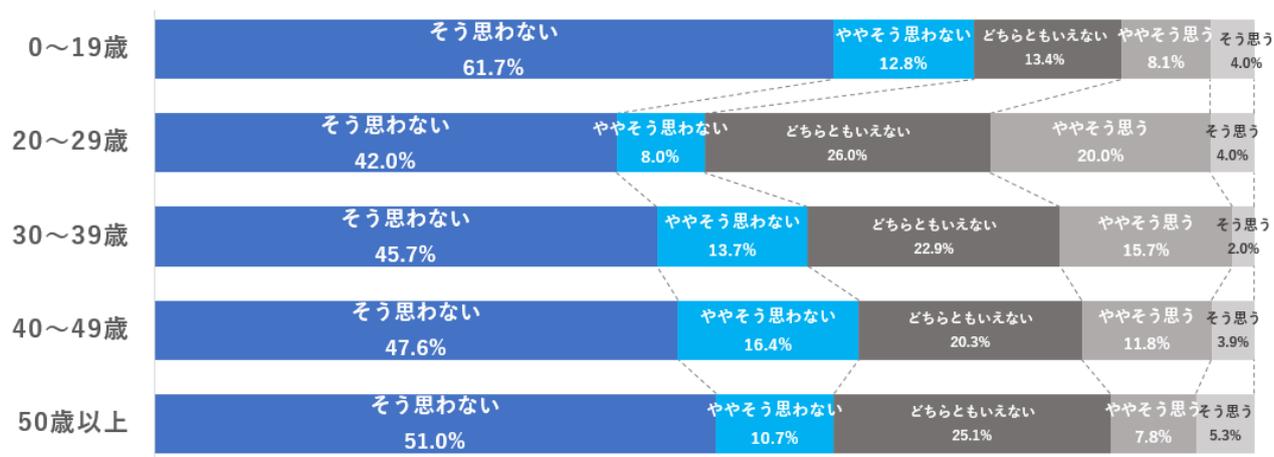
令和6年度では、「そう思わない」の割合は2.3ポイント上昇している。

グラフ7 性別と体罰容認の関係



「そう思う」の割合は、男性の方が9.2ポイント高い。

グラフ8 年齢と体罰容認の関係



「そう思う」の割合は50代で最も高く、「そう思わない」の割合は10代で最も高い。

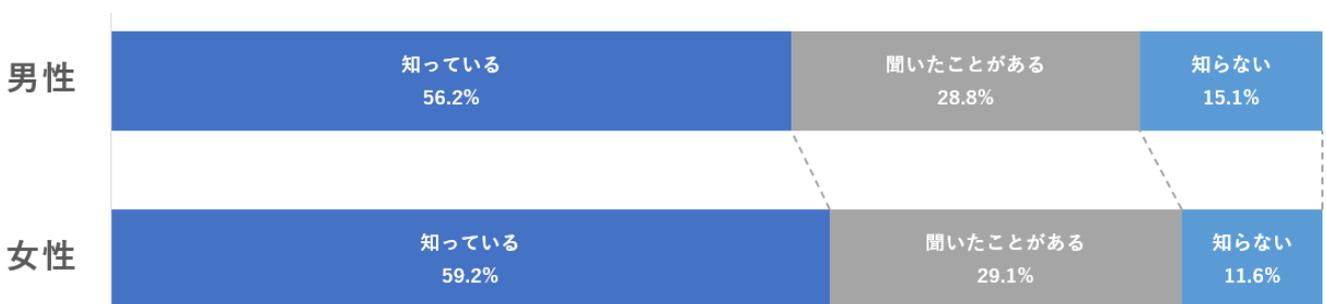
質問3 体罰が子どもに与えられと考えられる影響を知っていますか。

グラフ9 令和6年度との比較



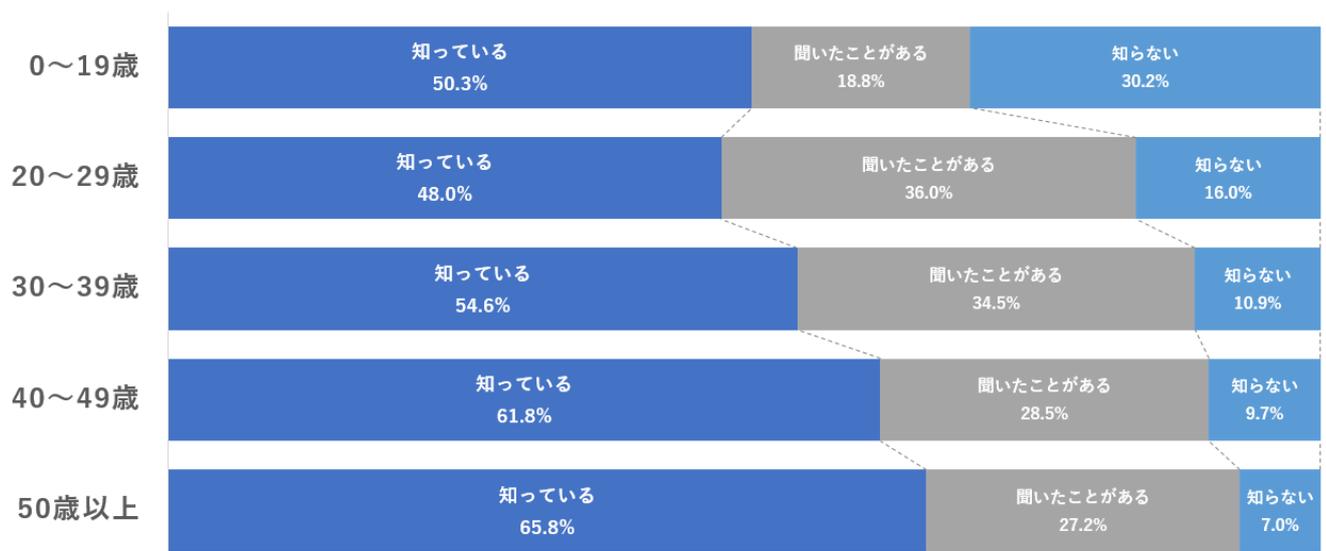
令和7年度では、「知っている」の割合は0.9ポイント減少している。

グラフ10 性別と認知度の関連性



「知っている」の割合は、女性の方が3ポイント高い。

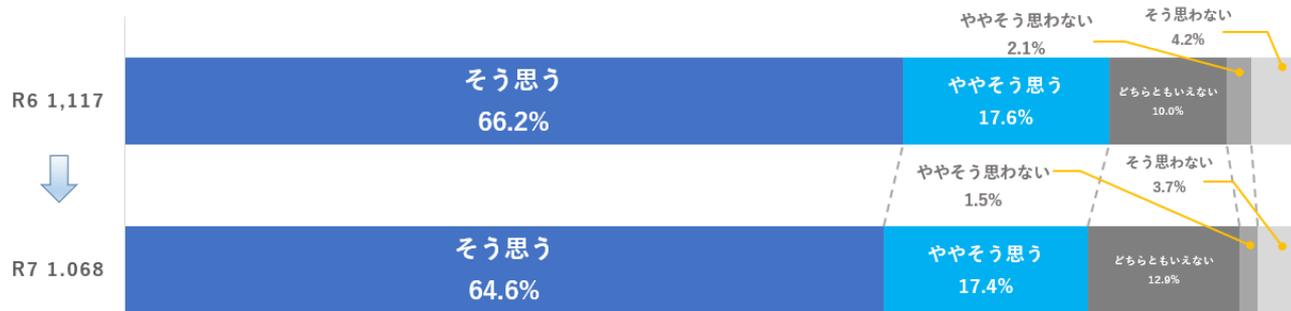
グラフ11 年齢と認知度の関連性



「知っている」の割合は50代以上で最も高く、「知らない」の割合は10代で最も高い。

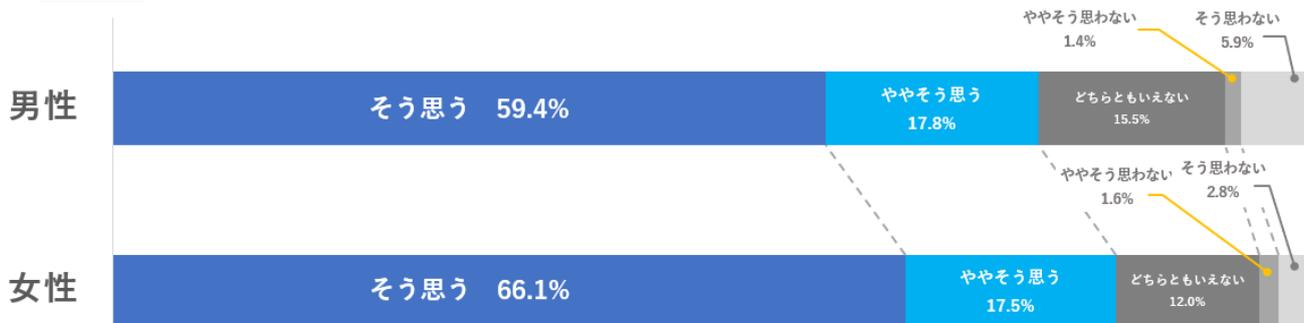
質問4 体罰以外のしつけの方法を学びたいと思いますか。

グラフ12 令和6年度との比較



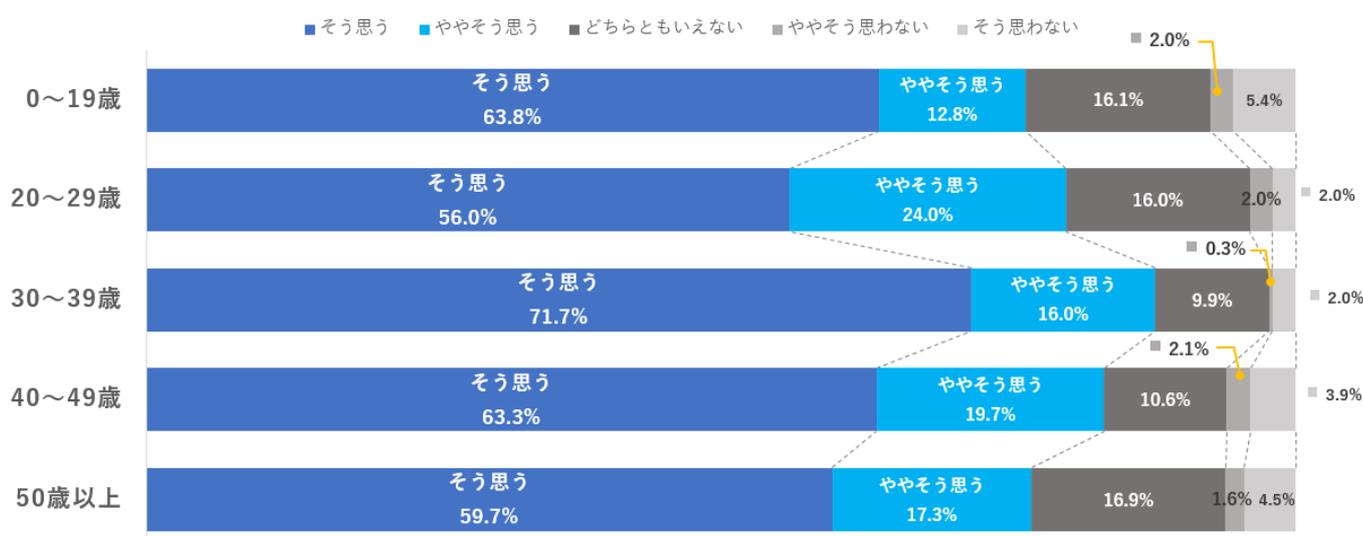
令和6年度と比較すると、令和7年度では「そう思う」の割合が1.6ポイント減少した。

グラフ13 性別と体罰以外のしつけの方法を学ぶ意欲との関連



「そう思う」の割合は、女性の方が6.7ポイント高い。

グラフ14 年齢と体罰以外のしつけの方法を学ぶ意欲との関連



「そう思う」の割合は30代で最も高く、「そう思わない」の割合は10代が最も高い。

質問5 (自由記載) 子どものために必要なしつけとは、どのような方法で行うことだと思いますか。

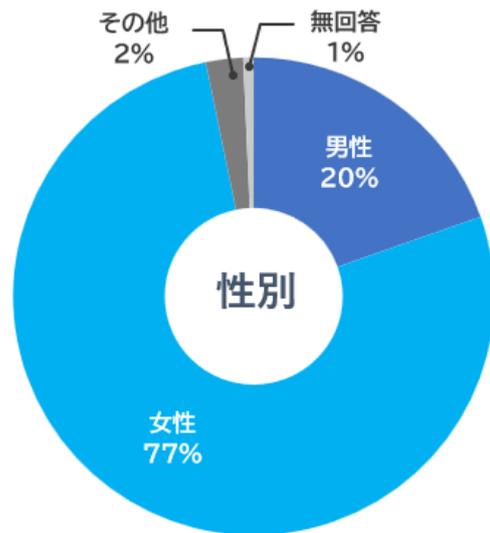
(1) 自由記載の回答数：552 件

ア 上記回答者の内訳

■ 性別

性別	人数	割合
男性	108 人	19.6%
女性	426 人	77.2%
その他	14 人	2.5%
無回答	4 人	0.7%
総計	552 人	

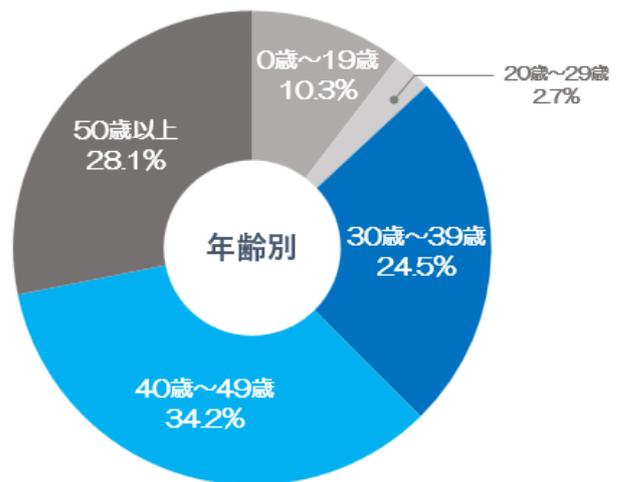
グラフ 15



■ 年齢

年齢	人数	割合
0～19 歳	57 人	10.3%
20～29 歳	15 人	2.7%
30～39 歳	135 人	24.5%
40～49 歳	189 人	34.2%
50 歳以上	155 人	28.1%
無回答	1 人	0.2%
総計	552 人	

グラフ 16



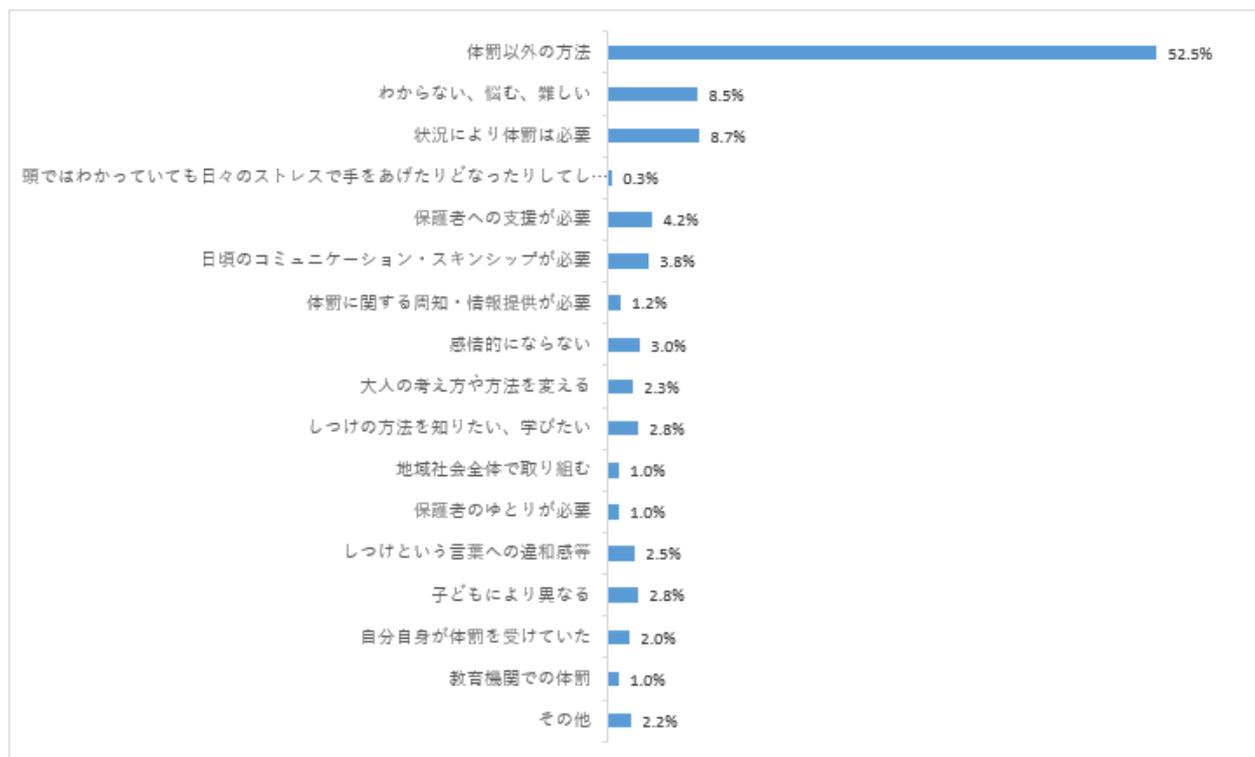
イ 上記回答の内容を以下 17 のカテゴリーに分類

- ① 体罰以外の方法
- ② わからない、悩む、難しい
- ③ 状況により体罰は必要

- ④頭ではわかっているけど日々のストレスで手をあげたりどなったりしてしまう。
- ⑤保護者への支援が必要
- ⑥日頃のコミュニケーション・スキンシップが必要
- ⑦体罰に関する周知・情報提供が必要
- ⑧感情的にならない
- ⑨大人の考え方や方法を変える
- ⑩しつけの方法を知りたい、学びたい
- ⑪地域全体で取り組む
- ⑫保護者のゆとりが必要
- ⑬しつけという言葉への違和感等
- ⑭子どもにより異なる
- ⑮自分自身が体罰を受けていた
- ⑯教育機関での体罰
- ⑰その他

ウ 上記イの内容をカテゴリー別に集計

グラフ17



○最も多い「体罰以外の方法」の具体的な内容は、以下のとおり。

- ・まずは、共感。あと、子どもが言いたい、伝えたいとしていることを言葉だけでなく、表情、友達関係、環境など、背景も察した上で、良いこと、悪いことを伝えていくべきだと思います。

- ・納得してもらう為にはゆっくりと話し合っていく。話を聞く時間かけて。良いところを見つけて褒める。罪悪感を抱かせない。
- ・命に関わることについては、「ダメ」を教える必要があると考えます。その他の日々のしつけについては、「ダメ」ばかりではなく、「どうすれば良いか」を教えることが必要と考えます。個々の発達特性があるので、一律にするのは難しいですが、大人も知識という引き出しを増やしていけると良いと思います。
- ・一緒に正しい事を（合っている事）を体現する、言葉で伝える、親が手本になる。
- ・年齢にあった言葉で説明すること。生活しているなかで都度教えること。一度では身につかないという気持ちで接する。
- ・ダメな理由をしっかりと伝え、相手の気持ちを相手の立場になって考えることが良いと思います。
- ・子供でもわかるような簡単な言葉で伝えること、子どもの心に響くようなことを話すべき、図や絵を使って子どもが興味を持つようなもので何がいけないのかを説明する。
等

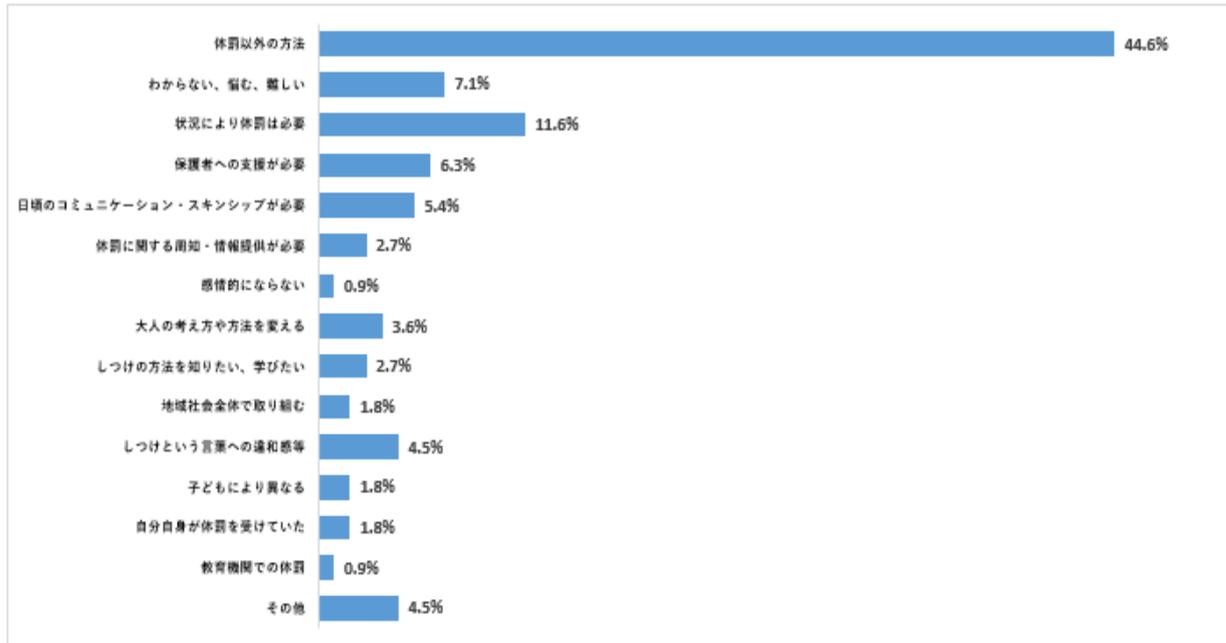
○「体罰以外の方法」以外の内容は、以下のとおり。

- ・しつけの方法として理想的なのは、子供と対話したり理解させる行動だと思うが、言い聞かせても理解してくれない時、また親の精神状態も考え、どのように行なうのがベストなのか、とても難しい問題だと思う。
- ・体罰は絶対良くないことだというのは大前提だが、大人の心の余裕の有無、子供の聞き分け度により実際の状況は大きく変わってしまう。
- ・優しい言葉で伝わるまで言う、それが伝わればとても良い方法だと思う。それでも伝わらないことが多いから怒ってしまったりする。子ども自身、体験や経験を通して学ぶことも多い。共感と抱きしめることが1番の方法だと思う。
- ・自分の感情を押し付けずにこどもの意見も尊重しつつ言葉にして伝える。
- ・自分が子ども時代、親に叩かれるのは当たり前のことでした。体罰問題がクローズアップされた時には「時には必要」と思ってましたが、子育て支援の仕事を進めるうちに、育て方の方法を考えるべきと思うようになりました。
- ・子供が自発的に善悪を考える機会を与える事が重要。しかしその方法は、子供の性格や年齢によって差があるので、親がどの方法が今の我が子に適しているのかを知る必要があると思います。その為には自分だけでは導き出せない方法を他から得る必要があると思います。
- ・親だけでは限界があると思う。学校、地域等多くのちからが必要かと思う。
- ・まずは叱るような状況を作らないこと。親がイライラしないような環境にすること。子供がいけないことをした時には、なぜそうなのか 子供の意見も聞いて、年齢にもよるがどういう風にしたらいいのかを一緒に考えたり、これからどうすべきかを一緒に考える。話し合いが大事だと思う。話し合いができる関係性づくりも大事。
- ・子供を擁護するためにイジメとか万引きという言い回しがあるが、ぼくはこれが子供の

教育に良くないと思う。暴力を振るえば傷害だし、相手を騙せば詐欺になる。子供には早い段階から社会のルール、犯罪への意識や教育が必要ではないか。 等

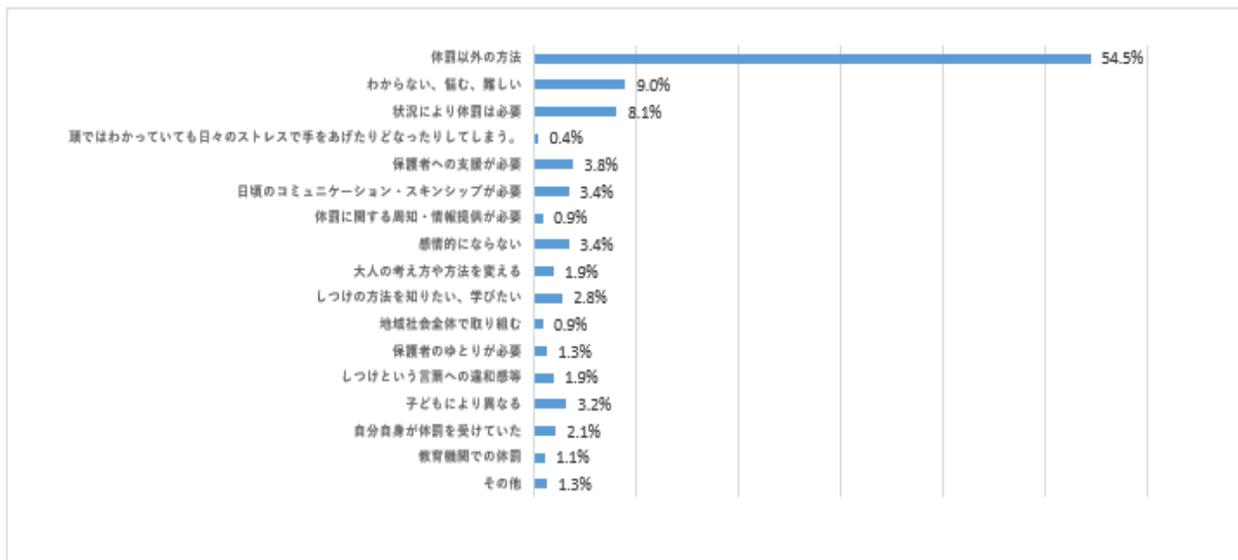
エ 上記イの内容について、性別や年齢別での回答傾向

グラフ18 男性の回答傾向



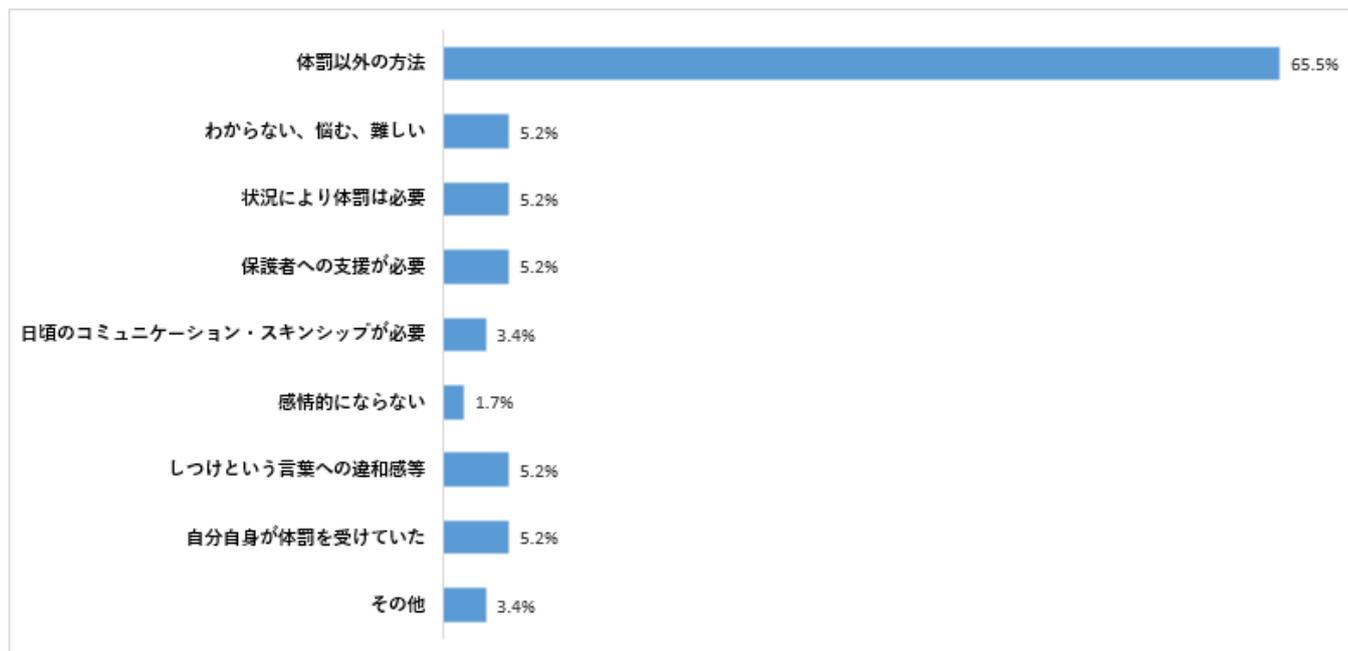
「体罰以外の方法」に次いで割合が高かったのは「状況により体罰は必要」で、その次が「保護者への支援が必要」であった。

グラフ19 女性の回答傾向



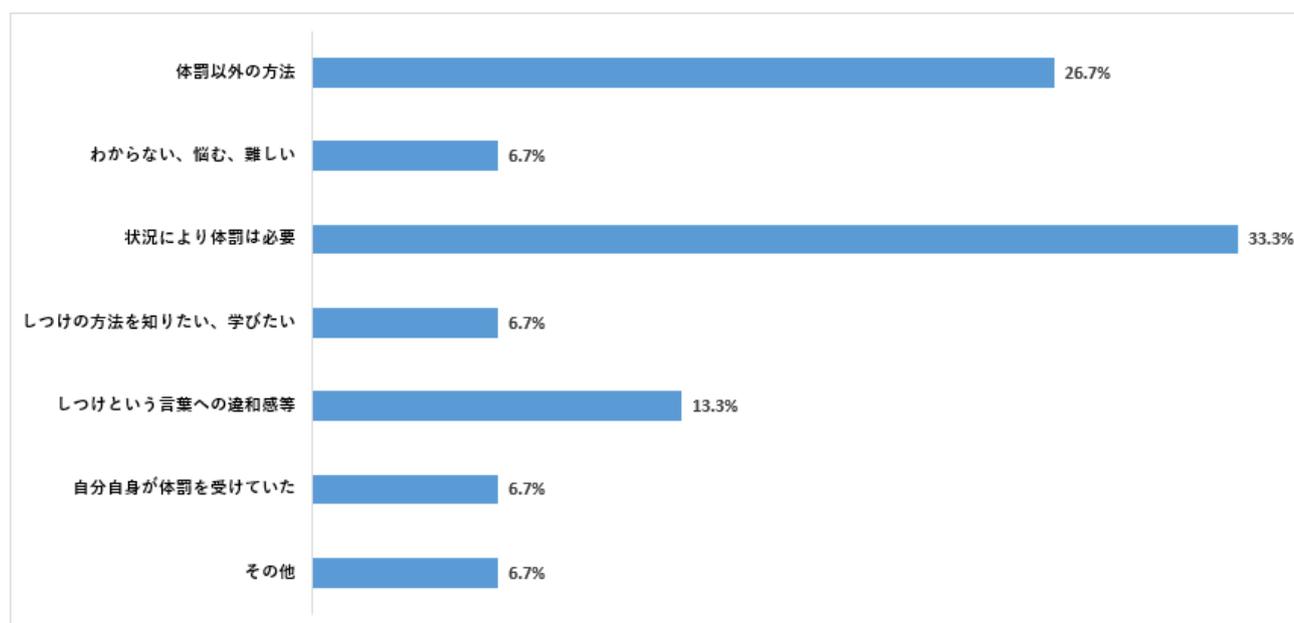
「体罰以外の方法」に次いで割合が高かったのは「わからない、悩む、難しい」で、その次が「状況により体罰は必要」であった。

グラフ 20 0 歳～19 歳の回答傾向



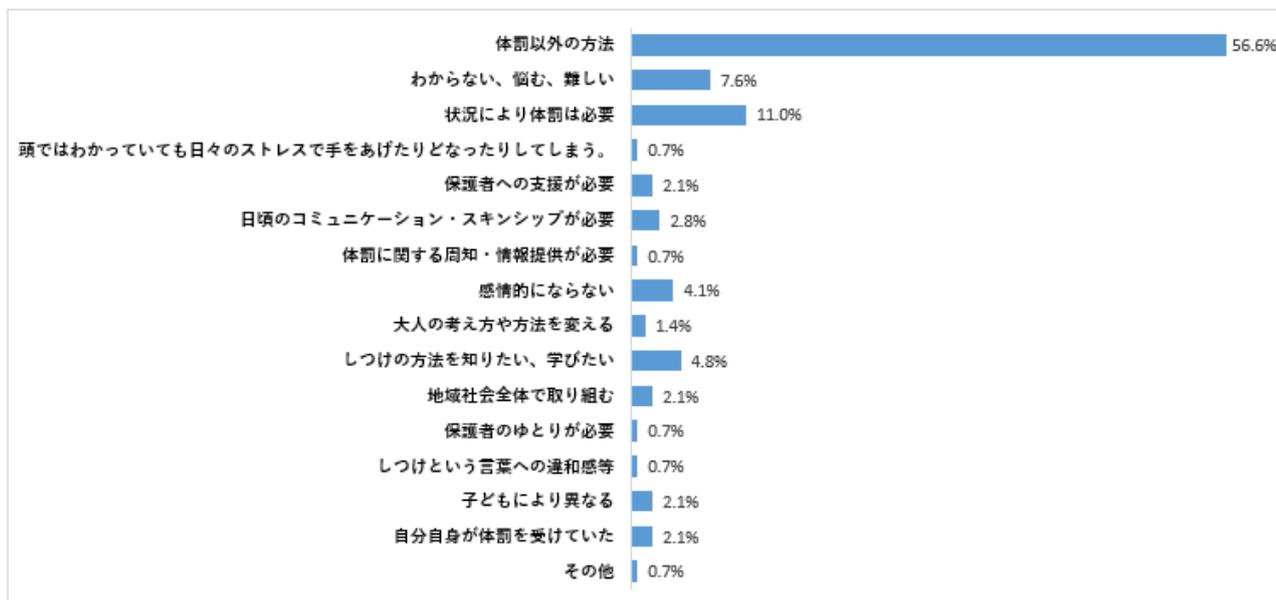
「体罰以外の方法」に次いで割合が高かったのは、「わからない、悩む」「状況により体罰は必要」「しつけという言葉への違和感等」「自分自身が体罰を受けていた」それぞれ同数であった。上記 8 項目以外の内容の回答はなかった。

グラフ 21 20 歳～29 歳の回答傾向



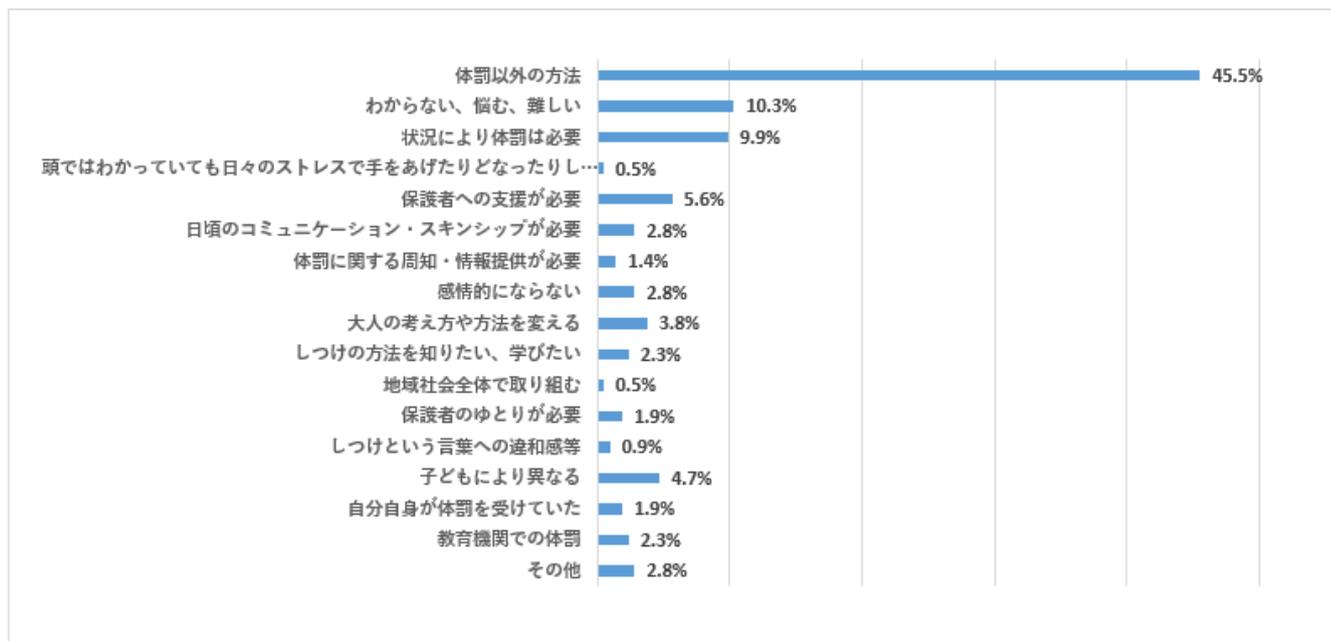
「状況により体罰は必要」に次いで割合が高かったのは「体罰以外の方法」で、その次が「しつけという言葉への違和感等」であった。上記 10 項目以外の内容の回答はなかった。

グラフ 22 30 歳～39 歳の回答傾向



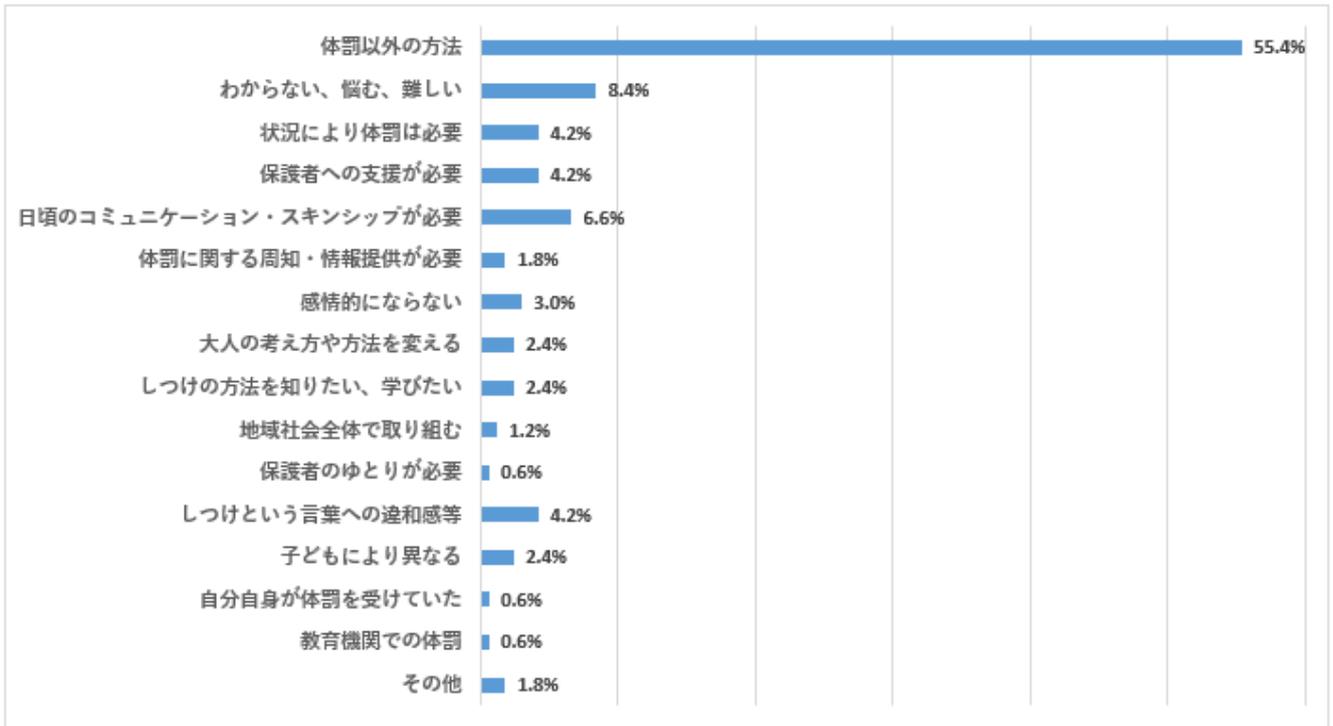
「体罰以外の方法」に次いで割合が高かったのは「状況により体罰は必要」で、その次が「わからない・悩む、難しい」であった。1 項目の回答はなかった。

グラフ 23 40 歳～49 歳の回答傾向



「体罰以外の方法」に次いで割合が高かったのは「わからない・悩む、難しい」で、その次が「状況により体罰は必要」であった。

グラフ 24 50 歳～の回答傾向



「体罰以外の方法」に次いで割合が高かったのは「わからない、悩む、難しい」で、その次に「日頃のコミュニケーション・スキンシップが必要」であった。